

(講座) 環境薬科学

(研究室) 機能性分子化学

(氏名) 梶島 力

(職名) 助教授

【研究テーマ】

1. 糖質代謝に関与する転写因子の機能解析
2. 生体成分の機能解析および医療への応用

【論文発表】

A 欧文

(A-a) 原著論文

1. M. Kai, M. Morizono, M.N. Wainaina, T. Kabashima, M.K. Lee, and J. Lu, Chemiluminescence detection of amino acids using an Edman-type reagent, 4-(1'-cyanoisindolyl) phenylisothiocyanate, *Anal. Chim. Acta* 535, P153-159 (2005) (IF: 2.588)

【学会発表】

A 国際学会

(A-b) 一般講演

1. Moses N. Wainaina, Kazuko Ohta, Tsutomu Kabashima, Yoshihiro Matsumura, Masaaki Kai: Fluorescent detection of amino acids derivatives sensitized by primary amines in the post cleavage conversion of peptides; The Kenya Chemical Society 5th International Conference, Abstract P36, Nairobi (Kenya) (2005)

B 国内学会

(B-b) 一般講演

1. 奥村亨輔、太田和子、梶島力、甲斐雅亮：蛍光誘導体化反応を用いる PVDF 膜上ペプチドホルモンの画像検出；日本薬学会第 125 年会 講演要旨集 (2) P73 東京 (2005)
2. 蛭子耕一、古村匡崇、太田和子、梶島力、甲斐雅亮：イソルミノールデキストランプローブの連鎖増幅効果と核酸の画像検出；日本薬学会第 125 年会 講演要旨集 (2) P73 東京 (2005)
3. 梶島力、伊藤佳代、太田和子、甲斐雅亮：糖質応答領域結合タンパク質と Mlx の相互作用に関する研究；日本薬学会第 125 年会 講演要旨集 (3) P57 東京 (2005)
4. 梶島力、伊藤佳代、太田和子、甲斐雅亮：Thr666 in ChREBP doesn't relate directly to protein interaction and DNA binding ability；第 78 回日本生化学会大会 講演要旨集 P828 神戸 (2005)
5. 伊藤佳代、太田和子、梶島力、甲斐雅亮：糖質応答領域結合タンパク質の DNA 結合能には Glu671 と Arg675 が重要である；第 22 回日本薬学会九州支部大会 講演要旨集 P113 福岡 (2005)
6. 殿岡恵子、太田和子、梶島力、甲斐雅亮：TMPG 化学発光法による DNA 結合タンパク質の簡便な検出と評価；第 22 回日本薬学会九州支部大会 講演要旨集 P154 福岡 (2005)

7. 奥村亨輔、太田和子、椛島力、甲斐雅亮：ペプチドの特異的蛍光反応の開発と HPLC 検出への適用；第18回バイオメディカル分析科学シンポジウム 講演要旨集P155 静岡（2005）

【研究費取得状況】

1. 糖質応答領域結合タンパク質による糖質および脂質代謝調節機構の解明；文部科学省科学研究費若手研究（B）

【過去の研究業績総計】

| | | | |
|----------|------|------|-----|
| 原著論文（欧文） | 24 編 | （邦文） | 0 編 |
| 総説（欧文） | 0 編 | （邦文） | 1 編 |
| 著書（欧文） | 0 編 | （邦文） | 0 編 |
| 紀要（欧文） | 0 編 | （邦文） | 0 編 |
| 特許 | 0 件 | | |